

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470500667
法人名	おもいやり介護の会 つくしんぼ
事業所名	グループホーム つくしんぼ
所在地 (電話番号)	津市片田志袋町300-181 (電 話)059-237-5301

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 21 日(金)

## 【情報提供票より】 (H19年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 9人, 常勤換算 6.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造・瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円程度
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 360 円
	夕食	440 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 8 月 1 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.33 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮崎歯科医院 安濃中央クリニック その他利用者個人が以前からかかっている医療機関
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、認知症高齢者が住みなれた地域や居宅で心豊かな暮らしができるようにという強い思いを持つ理事長が、自宅の向かいの民家を改築して開設された。団地の一角に位置し、近隣の住民の理解や協力も大きい。職員の姿勢も事業所の理念をもとに、危険の回避や職員の都合を優先するのではなく、利用者のその人らしさや力を引き出す支援に徹し、この事業所に利用開始時に着ていた拘束衣やおむつをはずし・自力歩行などに取り組んでいる。事業所側は地域の人たちの力を借りるだけでなく、地域で暮らす高齢者支援の発信地になることも目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画は同意のサインを得るように改善されている。また、契約書の指摘については理事長によって見直しを検討された。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員が個別に記入し、管理者がまとめて報告された。自己評価の取り組みから気づきが見出され、職員の意識改革につながっている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年6月に一回目の会議が開催されている。事業所の地域での位置づけや地域との連携、利用者の安全確保のために地域が把握しておきたいことなどが話し合われているが、具体的な取り組みには至っていない。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からはちょっとした希望や質問を寄せられることはあっても、意見や苦情といったものは寄せられていない。事業所側は家族会の立ち上げを検討しており、運営推進会議にも参加してもらって、運営に反映していきたいと考えている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>団地内の民家で、理事長の自宅の向かいに位置し、近隣の人々からは地域の住民として受け入れられている。散歩中にはお互いに声をかけあったり、花をもらったりすることもある。困っている利用者を見かければ事業所に連絡が入ったりもして、地域の人々から見守られていると事業所側は強く感じている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での暮らしを支えるという理念は団地の中の一戸として事業所を作るという形で体现されている。理念の実現のために一番大切な「おもいやり」が日々の心がけのことばとして挙げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理事長や管理者は、理念として挙げている「おもいやり」は「思いやり」ではない、というまでの強い思いを持ち、「おもいやり」とはについて常に職員に語り、共に考えていきたいという姿勢がみられる。職員も本当の「おもいやり」について常に自分に問いながら毎日を送っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者は職員と一緒にゴミ集積場の掃除をしたり回覧を回したりしている。地区の盆踊りや中学校の運動会への参加もしており、近所の方たちと気軽に挨拶を交わしたりする機会も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については話し合いがもたれ、介護計画の同意のサイン等必要と判断されたことについては改善されている。今回の自己評価票に関しては、全職員が個別に記入したものを管理者がまとめ、報告している。自己評価表に書き込むことで意識が変わったという職員もいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に一回目の運営推進会議が開催されている。メンバーは利用者・家族・市職員(介護保険課・福祉課)・自治会長・民生委員・ボランティア・中学校教師で、今後も委員として参加の予定。会議では事業所と地域との連携・地域の中での見守り等の意見交換がなされている。	○	会議を今後どのように進めていけばよいのかという戸惑いもあるということであるが、こういった戸惑いや、今回の外部評価の結果などについて気軽に話し合いながら、これからも継続して開催されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	手続き等でわからないことがあると、直接市の担当者に聞いている。また、役所への提出書類などは郵送せず、出向いて行き手渡しすることで意思の疎通や情報交換を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要な時のほか、毎月一回請求書の送付時に近況等を書いて伝えたり、家族からの意見や感想を求めたりしている。金銭の預かりはしておらず、医療や買い物に要した費用は事業所が立て替え、後で請求している。金銭を自己管理している利用者に関してはホームはタッチしないことを了解してもらっており今のところ問題はない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等はあまり寄せられることはないが、家族会を立ち上げることを検討している。代表には運営推進会議にも参加してもらい、事業所の運営に反映していきたいと考えている。	○	少人数ではあっても、意見や要望等がよりきめ細かく確実に出し合える家族の会は必要だということを管理者も認識していることから、実現に向けて努力されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が運営する他のグループホームやデイサービスとの兼務の職員はいるが、常時勤務する職員が利用者との強いつながりを持つことが大切だとし、管理者の法人内での異動はしていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で受けた研修は他の職員に伝達している。理事長は資格取得に向けて勉強中の職員に対して研修の時間や金銭面でのサポートを行っている。また、高齢者介護を熟知している理事長からアンケート形式で課題が出されたり、介護技術を実践で教えてもらったりするので、毎日が研修のようであると感じている職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、主に理事長が参加している。管理者は知り合いの他の事業所を訪問したり話し合ったりして意見交換する機会を持つはいるが、利用者や他の職員が法人以外のグループホーム等と交流する機会はほとんどない。	○	さまざまな人たちとの交流によって利用者も職員も楽しみの幅や視野の広がりがみられると思われる。管理者も、利用者を主役とした交流の機会について具体的な案を持っていることから、ぜひ実現に向けて一歩を踏み出していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	建物自体が民家であることから、馴染みやすい要素は大きいですが、すぐに契約を結ぶより、まず見学や体験からはじめてもらうことを勧めている。家に帰るといいう利用者にはとりあえずついて歩いている。歩き疲れた利用者を背負って事業所に帰ったこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	最も基本のことであり、何事も一緒にという姿勢である。職員は利用者から毎日何か教えられることがあると感じている。叱られたり注意を受けりすることがしょっちゅうあると明るく笑う職員から、共に過ごす様子がうかがえる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ことばに出ない思いなどは利用者の表情やそぶりから予測している。その場合、一応きちんと声かけなどして確認をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には利用者の様子をそのまま伝え、生活歴などをさらに聞き取ることで、利用者の理解に努めている。介護計画は家族や職員との話し合いや日誌の記録などをもとにして作成しており、必要な場合は医療機関も交えて話し合っている。介護計画は日誌に添付し、職員は目を通してから仕事を始めることになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回、チェックシートによる見直しをしているが、状態に変化が見られた場合は随時見直しをしている。変更した介護計画は変更した旨記載し、日誌に添付して職員が目を通せるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援のほか、買い物やふるさと訪問等の外出支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用者・家族の希望するかかりつけ医での受診の支援をしている。受診には事業所の管理者が付き添い、医師との連携を図っている。受診結果については家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては希望があれば最期まで事業所で過ごしていただきたいと考えているが、特に医療的な対応が必要になってくるとどこまで対応できるかわからない。家族とはその都度話し合い、入院や他の事業所等への住み替えを勧めることもあると考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の前で利用者を話題にすることを避けるなどして、十分配慮をしている様子がみられたが、民家を改造した造りのためか、全体にプライバシーが保たれにくい状態である。特に狭さや危険という理由で、頻繁に行き来のある廊下に面したトイレ内の介助や見守り時にアコーデオンカーテンが閉じられないままなされている。	○	建物の造りや設備・利用者の特性の問題もあり、アコーデオンカーテンを閉めることの困難さは理解できるが、尊厳を保ちたいと考える排泄に対する配慮の重要性を理解していただき、プライバシーの保てるような工夫をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、その日の過ごし方は本人のペースや希望にあわせている。外出行事の際なども出かけたがらない利用者に無理強いすることはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日にある食材からみんなで話し合って献立を考えている。利用者も調理・盛り付け・片付けなどできることを職員と一緒にしている。調査日は利用者が作った吸い物が付いており、食事中的話題にもなったりして和やかな雰囲気での食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添って支援している。結果的には週2～3回程度で定着している。入りたがらない利用者に対しては、1週間程はそのまま様子を見、長引く場合は声かけなど工夫して入ってもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯・掃除等身の回りのことのできることは自分でしてもらっているだけでなく、近くのコンビニエンスストアに食材を買いに行ってもらったりすることもある。利用者の生まれた所や過ごした所などを訪れるふるさと訪問や、法人の運営するデイサービスセンターとの交流で温泉などに行ったりする機会もあり、利用者の楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、テラスで外気浴をしたりしている。一人で散歩に出かける利用者もおり、歩くコースを職員は把握している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉は閉めてあるが、自由に開けて出て行ける状態になっており、一人で散歩に出かける利用者もいる。団地の住民は事業所の利用者の特性をよく理解してくれており、声をかけたり、必要であれば事業所に連絡したりしてくれる。近くの派出所やコンビニエンスストアには利用者の写真等を配り、協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者はマニュアルを用意し、避難の手順など職員に説明しているが、訓練は利用者がパニックに陥ることが予測されるという理由で行っていない。職員の避難の手順等の理解は十分とはいえず、特に夜勤時の対応には大きな不安を抱いている。	○	災害時の対応は何らかの形で話し合われていると思われるが、再度職員全体で事業所独自の対応を話し合い、共有されることが望まれる。また、利用者も参加した避難訓練が困難であれば、訓練の方法を工夫し、何らかの形で実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
また、					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前中に一回、健康バランス飲料を飲んでもらっているほか、飲み物は自由に飲める状態になっている。食事は魚中心のメニューで、野菜嫌いな利用者がいても無理強いはしていない。利用者の健康診断を定期的に行い栄養状態もチェックしているが、献立に関して専門家からアドバイスを受けてはいない。	○	利用者の健康維持はバランスの良い食事の摂取が基本であり、一度専門家のアドバイスを受けられることをお勧めしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団地の中の民家を改造して作られた建物であるため、門を入るときから親しみが感じられる。家中の戸が開け放たれて風通しも良く、広々としているわけではないが開放感があり、利用者も我が家にいるような表情で訪れた人を招き入れ、くつろいだ様子がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人部屋はそれぞれの好みでしつらえられており、赤ちゃん人形を大事に飾っている利用者もいる。他人同士で使用している二人部屋は家財等で間仕切りが工夫され、共有空間にはテーブルが置かれて仲良く向き合っすごされている姿がみられた。		